令和8年度 こどもの居場所づくり検討部会　検討のまとめ（素案）

【資料7−4】

検討の目的　本部会では、こどもの居場所づくりを地域全体で進めるため、地域連携、災害時のこどもの居場所及び意見聴取・こどもの参画について検討を行い、現状・課題、基本的な考え方及び今後の方向性を整理した。

部会としての基本的な考え方　こどもをまんなかに、地域全体で居場所・支援につなぐ

1 地域連携

現状・課題

・個別の取組や行事協力にとどまりやすい。
・こどもの居場所に関する情報や、地域資源がネットワーク化されていない。

部会としての方向性

日常的な「顔の見える関係」をもとに、児童館、学校、地域団体、関係機関等が役割を生かし、こども・家庭を必要な居場所や支援につなぐ。個別の取組を点にとどめず、地域のネットワークとして情報と導線をつなぐ。

今後の取組

地域ネットワークや社会福祉協議会の仕組みと接続し、居場所・支援情報の共有と、関係者間の顔の見える関係づくりを進める。
・事例の共有を通じて、各こどもの居場所で地域連携の重要性の意識を持つ。

2 災害時のこどもの居場所づくり

現状・課題

・避難所等におけるこどもの遊び場や見守り人員の確保が課題
・災害時のこどもの居場所づくりの考え方の重要性が知られていない。
・窓口の一本化　　・地域連携

部会としての方向性

安全確保を最優先に、指定避難所及び避難所外で、被災状況に応じて可能な限り早期に居場所を確保する。年齢・発達段階、心身の状態等に配慮し、こども・保護者の声を運営に反映する。

今後の取組

・見守り、遊び・学び、情報提供、安全・衛生・プライバシーへの配慮、児童館等の早期再開等の考え方を整理し、地域防災計画へ反映する。

3 意見聴取・こどもの参画

現状・課題

・意見聴取から反映・フィードバックまでの運用を定着させる必要
・居場所に携わる人が実践的な手法を学ぶ機会が必要

部会としての方向性

意見を聴くこと自体を目的とせず、「聴く・反映する・フィードバックする」を一連の取組として進める。年齢や発達段階等に応じた分かりやすい方法を用い、企画・運営・振り返り・改善にこどもが関わる機会を広げる。

今後の取組

・児童館等の身近な居場所で、企画・運営への参画や意見交換を実践し、反映した内容をこどもに伝える手法を整理する。
・こどもの意見聴取・参画に対する重要性を施設及び地域等と共有していく。